

『をちこち』第23号
特集「翻訳がつくる日本語」
発売開始のお知らせ

『をちこち(遠近)』は国際交流基金(ジャパンファウンデーション)が発行する、国内唯一の国際交流専門誌です。

日本語は翻訳を通して磨かれ、鍛えられてきました。昨年来、ドストエフスキーの新訳がベストセラーになるなど、今また翻訳が注目されています。外国語和訳のケースに焦点を置き、翻訳の歴史から、言葉とアイデンティティの関係、翻訳の未来図までを追い、翻訳と日本語の密接な関係に迫ります。

<<特集ページの主な記事>>

巻頭鼎談：日本語は翻訳によっていかに鍛えられたか

鹿島茂(明治大学教授) × **亀山郁夫**(東京外国語大学長) × **鴻巣友季子**(翻訳家)

翻訳は人間関係を表現する日本語の宝庫である

中村桃子(関東学院大学教授)

人間は言語が違って同じことに惹きつけられる

ロジャー・バルバース(東京工業大学世界文明センター長)

「翻訳大国」ニッポンという誤解

宮田昇(日本ユニ著作権センター理事)

翻訳のアナログ思考をデジタル技術が支える

安藤進(翻訳家) 他

<<その他の記事>>

「ジャパングル」に世界はなぜ熱狂するのか

ラファエル・マルカダル(ジャーナリスト) 他



本誌の購読をご希望の方は、最寄りの書店または山川出版社(03-3293-8131)にお申し込みください(定価525円・税込)。

貴紙・誌にてお取りあげくださいますようお願いいたします。

お問合せ：情報センター 西納(にしろう) Tel: 03-5369-6075